



浦河町文化財少年団では郷土の自然・文化・歴史について学習し、それらを守るための活動を行っています。

生涯学習ニュース

文化財少年団が 歴史の架け橋に

活動の歴史

昭和41年1月、以前から町内の埋蔵文化財の発掘調査に参加していた浦河第一中学校郷土史研究クラブや浦河高校の生徒約50人により、郷土の歴史や文化について学習し、文化財を大切に守り、次の世代の人たちに伝えていく活動を行う団体として、「浦河町文化財少年団」が結成されました。

この少年団は、結成当時から郷土史研究会の人たちとともに、遺跡パトロールや発掘調査への参加、資料整理の協力、お寺や神社の調査、開拓の歴史や生活資料の調査など活発な活動を行っていました。

結成以降、指導者の転勤や参加する子どもたちの減少により、活動を休んでいた時期もありましたが、学芸員を中心とした博物館の活動が活発になるにつれて、自然や歴史、文化に関心をもつ子供たちが増え、昭和52年5月に小学4年生から中学生までを団員として再結成。生まれ変わった少年団は、自然観察会、遺跡の発掘調査、アイヌ文化の体験など、いろいろな分

学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより

浦河第二中学校

校長 中館吉達
生徒数 43人

「卒啄同機」

浦河第二中学校の特色の一つに「歌声活動」があります。7月の「歌声交流会」、9月に学校祭での「合唱コンクール」、そして11月に行われる「歌声コンサート」と段階を踏んでいくごとに曲目を追加し、歌い込み、仕上げ、学級や全校生徒の結束を深めていきます。

今年で第9回目となる、その「歌声コンサート」が過日、11月7日に総合文化会館の文化ホールで、たくさんの来場者の中、行われました。

今年の見応え、聴きごたえのあるものとなりました。その分、生徒たちの練習量も増し、苦勞することも多かったのですが、それだけにコンサートを終えた後の達成感、充実感ほどの生徒の表情にもよく表れていました。

毎年9月に行われる学校祭では、残暑厳しい猛暑の中、夏休み前から合唱、壁新聞、演劇、学級紹介発表、アトラクション、委員会活動にと一人がいくつもの役割を担いながら、熱心に取り組んできた活動の成果を精一杯発揮していました。

そんな生徒たちの下支えとなる本校教職員は、「卒啄同機」く教育・指導する側の外的動機づけと、生徒のうちに育ちつつある内的動機が一致し交流する」を大切にしながら教育活動を進めています。



今年のコンサートは、男子のみ、女子のみの「縦割り合唱」を新たに追加、これまで



昭和41年に復元した竪穴住居 文化財少年団

野の郷土学習に取り組み、郷土に受け継がれてきた文化を大切に守り、さらに後世の人たちに伝えていこうと努めています。

最近の少年団活動

平成8年度から入団員を小学3年生まで広げ、名称を浦河町文化財少年団「博物館クラブ」と改称。この頃から、さらに団員数も増え、平成12年度は100人以上にもなりました。ここ数年は30人前後となりましたが、野鳥や植物の自然観察会、宿泊研修など充実した活動を行っています。



「オオワシ・オジロワシをみよう」

平成10年に、子どもたちによる長年の活動成果が認められ、浦河町で開催された「北海道博物館大会」において表彰を受け、さらに平成13年度には北海道文化財保護功労者表彰を受賞しました。

これからの少年団活動

少年団も結成から長い年月が経過し、現在では親子で少年団員を経験した方、学芸員になった方や博物館ボランティアをしている方などがいます。少年団の活動を通して、郷土の自然・文化・歴史が世代をまたいで受け継がれています。

最近の活動は、「植物観察会」



「海浜植物観察会」

「ツリークライミング」「宿泊研修」「野鳥観察」などを実施するとともに、博物館友の会事業にも参加しています。今後、さらに後世の人たちへの架け橋となるよう、子どもたちが楽しみながら学習できる活動を行っていきたくと考えています。

文化財少年団に興味のある方や入団を希望する方は、ぜひ一度、お問い合わせください。

○浦河町文化財少年団に関するお問い合わせは
浦河町立郷土博物館
電話28-1342

学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより 学校だより

荻伏小学校

校長 西澤隆之
児童数 81人

地域と連携し豊かな体験

学習を活かす教育活動

実りの秋を迎えて

荻伏小学校では、関係機関や地域の皆様のご協力を得て、様々な体験学習を実施しています。今年度も5年生は、総合的な学習の時間を使い、お米作りを体験させていただきました。

風にそよぐ小さな苗が、秋にはずつしりとした稲穂を实らせま



田植えく稲の生長観察く水路の生き物調査く稲刈り・はさがけく脱穀・精米く収穫祭から、子どもたちは本当にたくさんのお米を学びます。泥んこになって植えた、

す。汗だくになって刈取り、昔ながらのはさがけをし、乾燥した稲穂は、やがて尊いお米となって現れます。子どもたちは、まるでいとおしむかのようにお米に触れ、大切にします。日頃よりお世話になり、協力農家、土地改良区、振興局、役場の皆様には、心より感謝申し上げます。



この時期、全校の子どもたちが楽しみにしていることがあります。秋サケのフレック作りです。学習の成果は、米飯給食のときに、各学級に山盛りの大皿にふるまわれ、全校児童でおいしくいただきます。